

かぜと間違えないで

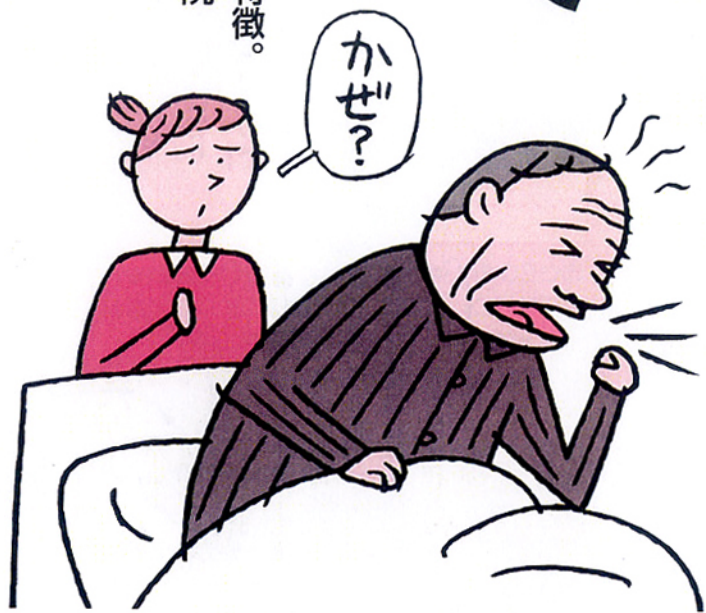
中田紘一郎

東邦大学医学部教授

12月20日放送
12月27日再放送
1月4日再放送

ポイント

- 肺炎は、かぜに比べて強い症状が長く続くのが特徴。
- 軽症の場合は抗菌薬を内服し、重症の場合は入院して点滴を行う。
- 予防には、2種類のワクチンの接種が効果的。



イラスト●渡部淳士

★かぜと肺炎の違い

肺炎の場合は、高熱や激しいせきなど強い症状が長く続く

冬はかぜをひきやすい季節です。また、かぜだと思っていたら「肺炎」だった、ということも少なくありません。厚生労働省が日本での主な死亡原因を調査した結果によると、肺炎は、がん、心臓病、脳卒中に続く第4位で、昨年1年間で9万人以上の人が亡くなっています。その大半はお年

寄りで、「肺の病気や心臓病、糖尿病」などの病気をもつ人が多く含まれています。

しかし、かぜと肺炎の症状はよく似ているために、肺炎をかぜと思いついてしまっている人も多いためです。その結果、手当てが遅れて重症の肺炎になり、命にかかわることがあるのです。また、これからの時期はインフルエンザから肺炎になることも多いため、特に注意が必要です。

そこで今回は、お年寄りの肺炎を中心に説明していきます。

●かぜと肺炎の違い

かぜは、ほとんどが「ライノウイルス、アデノウイルス、インフルエンザウイルス（下段参照）」などのウイルス感染が原因で起こります。一方、肺炎は主に「肺炎球菌」などの細菌感染が原因で起こります。最初から細菌に感染して起こる場合と、先にウイルスに感染して二次的に細菌感染する場合とがあり、多いのは後者です。

炎症が起こる場所も異なります。かぜの場合、主に「鼻やのど」などの上気道に炎症が起こります。肺炎の場合、肺で酸素と二酸化炭素の交換を行う「肺胞」など、肺の中に炎症が起こります。

●肺炎の症状

かぜも肺炎も、主に「発熱、せき」などの症状が起こります。ただし、かぜの場合はこれらの症状が1週間程度で治まりますが、肺炎では長引くことが多く、症状も強く出ます。「38℃以上の高熱」「激しいせき」「黄色や緑色の痰（炎症反応の結果、死んだ白血球が痰に混ざり、色がつく）」などが見られる場合は、肺炎の疑いが強くなります。またお年寄りの場合、若い人に比べて、このようにはっきりとした症状が出ないことも多くあります。「元気がない、食欲がない」などの症状や、酸素不足によって起こる「息切れがする」という

★特に注意したいインフルエンザ

インフルエンザウイルスに感染して起こるのが「インフルエンザ」です。ほかのウイルスに比べて感染力が強く、症状も激しいので、普通の「かぜ」とは区別されます。

普通のかぜと同様に、鼻やのどの症状も出ますが、それに加えて、「高熱」「全身の筋肉痛」「倦怠感」など、激しい症状が起こるのが特徴です。特にお年寄りはインフルエンザにかかる、肺炎につながることもあるため、症状が現れたらすぐに受診することが大切です。

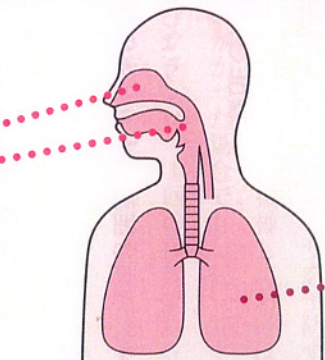
●かぜと肺炎の違い●

かぜ

主な原因 ▶ ウイルス感染
(ライノウイルス、アデノウイルス、インフルエンザウイルスなど)

炎症の起こる場所 ▼
気管より上。鼻やのどなど

症状の特徴 ▼
発熱、鼻やのどの症状などが、1週間程度で治まる



かぜと肺炎は原因や炎症の起こる場所が異なる。肺炎は肺の中に炎症が、かぜは「鼻炎、咽頭炎、喉頭炎、扁桃炎」などが起こる。

肺炎

主な原因 ▶ 細菌感染
(肺炎球菌など)

炎症の起こる場所 ▼
肺の中

症状の特徴 ▼
高熱、激しいせき、痰などの強い症状が長く続く